

北方領土問題 元島民に聞く

オンラインで日置・上市来中



色丹島の元島民の話をオンラインで
聞く生徒 一日置市の上市来中学校

日置市の上市来中学校の1〜3年生22人が16日、色丹島の元島民、得能宏さん(87)に北海道根室市IIの体験談をオンラインで聞いた。旧ソ連占領下の島民の生活や、望郷の思いに耳を傾け、北方領土への理解を深めた。

得能さんは色丹島生まれ。11歳だった1945年9月1日に侵攻した旧ソ連軍の占領下で、47年9月まで生活した。

日本に引き揚げるまでに多くの島民が命を落としたことを紹介し、「北方領土

は日本の島。若い人が歴史を学び、ロシアと友好を育みながら返してもらおう運動をしてほしい」と呼び掛けた。3年の丸峯虹星さんは「厳しい生活の様子を知った。感想をみんなで話し合い、もっと理解を深めたい」と話した。

独立行政法人北方領土問題対策協会(東京)が、新型コロナウイルスの影響で中止となった現地視察の代わりに全国13校で実施。同日は愛媛、沖縄の中学校と同時にウェブ会議システムで結んで行われた。(吉田文)



丸峯虹星さん(3年)

「厳しい生活の様子を知った。感想をみんなで話し合い、もっと理解を深めたい」

